



静脈血栓塞栓症とは

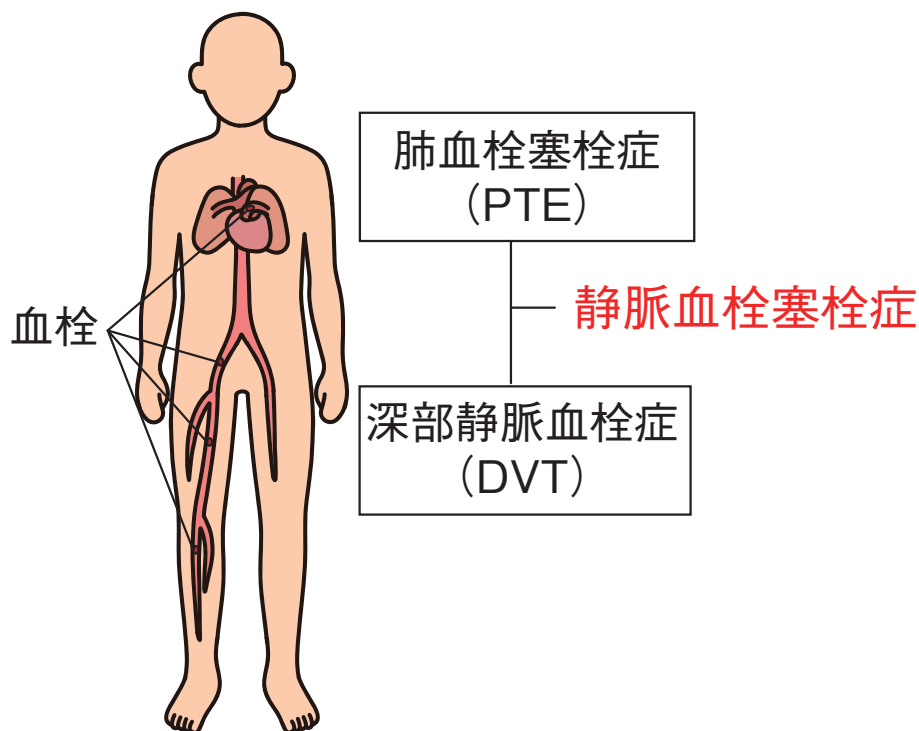
静脈血栓塞栓症は、深部静脈血栓症（deep vein thrombosis：DVT）と肺血栓塞栓症（pulmonary thromboembolism：PTE）を包括した総称です。欧米では発症頻度の高い循環器疾患のひとつですが、近年は日本でも生活の欧米化や高齢化、診断技術の進歩などにより、患者数が増加しています※1、2）。



静脈血栓塞栓症の病態

深部静脈血栓症は、下肢や骨盤内の深部静脈に血栓が形成された病態です。この血栓が遊離して肺に移行し、肺動脈を閉塞するのが肺血栓塞栓症です（図1）※1）。深部静脈で形成される血栓は、フィブリンの含有量が多いのが特徴です※3）。

図1 静脈血栓塞栓症



詳しくは、循環器情報サイト Assist の
薬剤師のためのアシスト
「循環器疾患の病態と治療」をご覧ください。



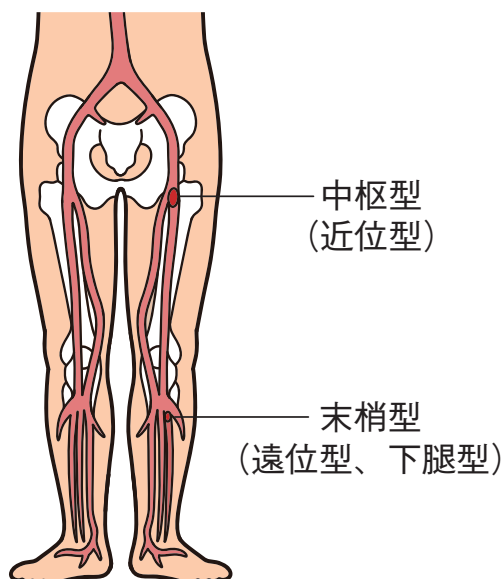
循環器情報サイト
Assist はこちら



<https://med2.daiichisankyo-ep.co.jp/cardiology>
Copyright © 2025DAIICHI SANKYO ESPHA Co., LTD. All Right Reserved.



図2 深部静脈血栓症の分類※2)



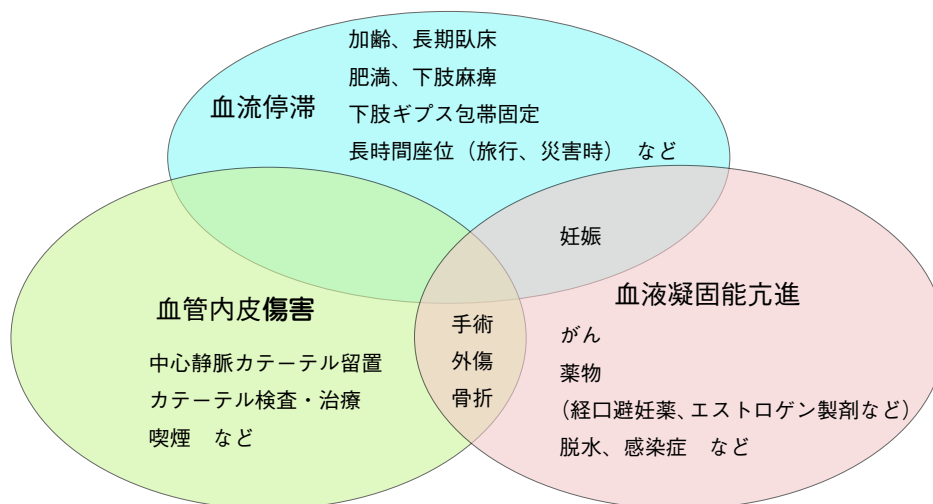
深部静脈血栓症は、血栓が形成される位置によって、中枢型（近位型）、末梢型（遠位型、下腿型）にわけられます（図2）※2）。

末梢型で下腿などに限局する血栓は小さいことが多く、症候性の肺血栓塞栓症が生じにくいとされています。一方、中枢型（近位型）は高い割合で肺血栓塞栓症を合併し、重篤化しやすくなります。

静脈血栓塞栓症の原因

静脈血栓塞栓症の原因として、血流停滞、血管内皮障害、血液凝固能亢進があげられます（図3）※2）。

図3 静脈血栓塞栓症の主な原因※2)



静脈血栓塞栓症の一部は、高ホモシステイン血症やアンチトロンビン欠乏症などの先天性因子が原因となりますが※2）、多くは後天性や原因不明（特発性）です。

詳しくは、循環器情報サイト Assist の薬剤師のためのアシスト「循環器疾患の病態と治療」をご覧ください。



循環器情報サイト
Assist はこちら



<https://med2.daiichisankyo-ep.co.jp/cardiology>

Copyright © 2025DAIICHI SANKYO ESPHA Co., LTD. All Right Reserved.



静脈血栓塞栓症の症状

急性期の深部静脈血栓症は、血栓の形成に伴う浮腫や疼痛などの症状が出ることがあります※²⁾。慢性期には静脈還流障害による静脈瘤や色素沈着、皮膚炎などの血栓後症候群（post-thrombotic syndrome：PTS）がみられます※²⁾。

急性肺血栓塞栓症は、急性右心負荷と低酸素血症による呼吸困難や胸痛などの自覚症状があります※²⁾。



<文献>

- ※ 1) Nakamura M, Yamada N, Ito M, et al: Current management of venous thromboembolism in Japan: Current epidemiology and advances in anticoagulant therapy. J Cardiol. 2015; 66(6): 451-459.
- ※ 2) 日本循環器学会 / 日本肺高血圧・肺循環学会合同ガイドライン：2025 年改訂版肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症および肺高血圧症に関するガイドライン
https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/03/JCS2025_Tamura.pdf (2025 年 4 月 1 日閲覧)
- ※ 3) 吉田洋二：血栓の超微形態的構造。血栓症—発生・背景・治療，メジカルビュー社，19-24，1989.

監修：陽だまりの丘なかむら内科 院長 中村 真潮先生

この記事は 2025 年 3 月現在の情報となります。

詳しくは、循環器情報サイト Assist の
薬剤師のためのアシスト
「循環器疾患の病態と治療」をご覧ください。



循環器情報サイト
Assist はこちら



<https://med2.daiichisankyo-ep.co.jp/cardiology>
Copyright © 2025 DAIICHI SANKYO ESPHA Co., LTD. All Right Reserved.

PP-Ri_GX-JP-0071-17-04